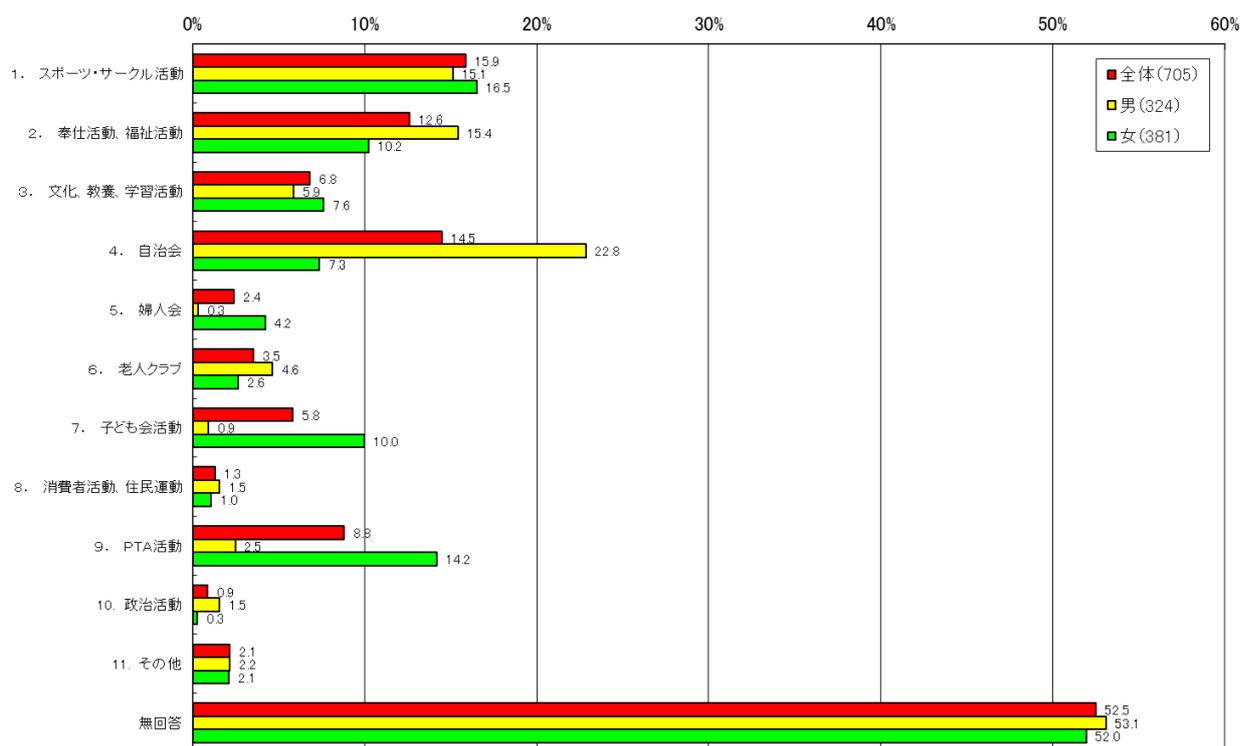


## 4 社会への参画について

### 4-1 地域活動の参加状況・参加希望

問 13 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」についてそれぞれ選んでください。（あてはまるものすべてに〇）

#### 問 13-1 現在参加している地域活動



#### 【全体】

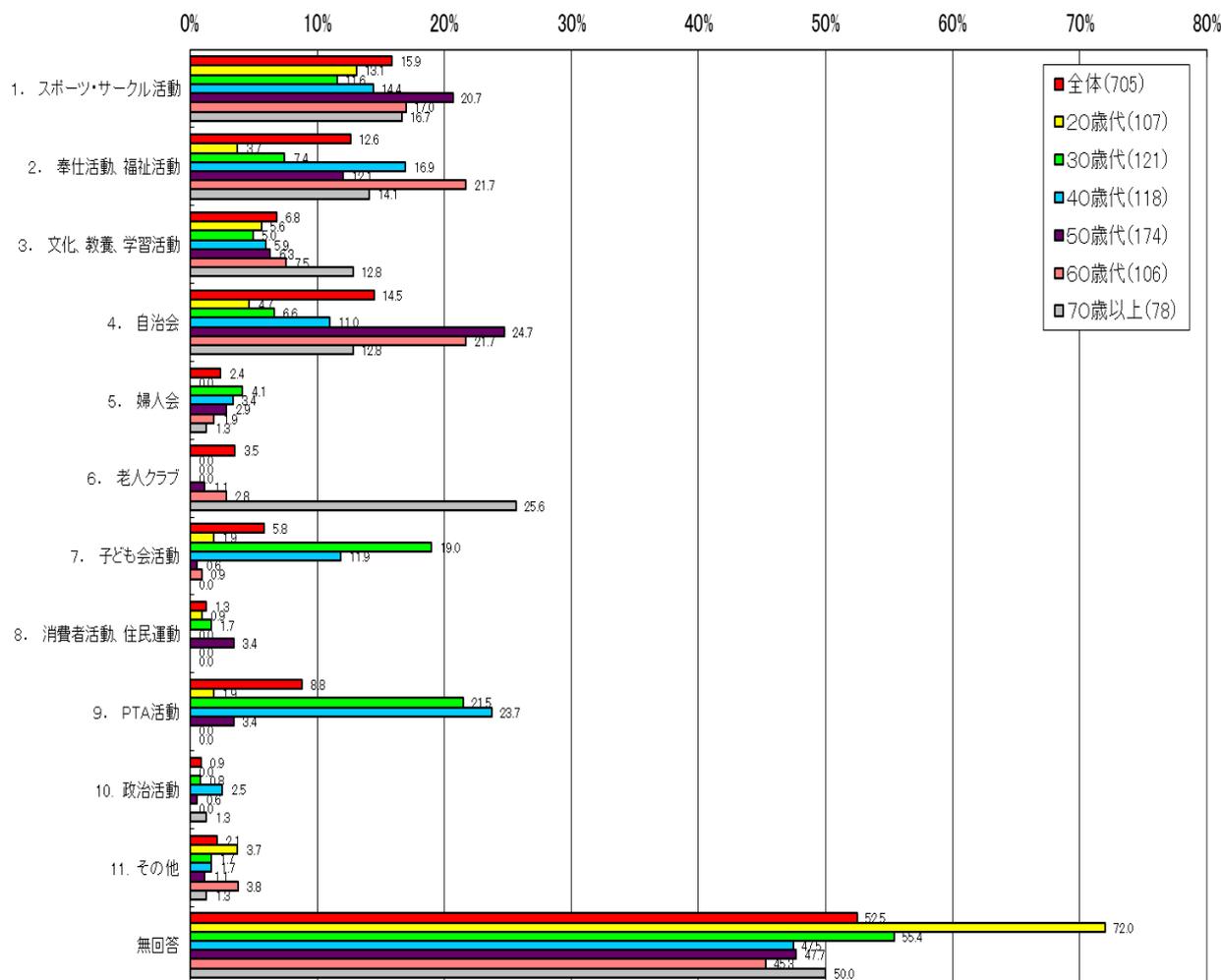
「無回答」の割合が52.5%で最も高くなっており、半数以上の人々が、現在いずれの地域活動にも参加していないことが推察されます。

参加している地域活動の中では、「スポーツ・サークル活動」の割合が15.9%で最も高く、次いで「自治会」の割合が14.5%となっています。

#### 【性別】

男女とも「無回答」の割合（男性53.1%、女性52.0%）が最も高くなっています。

「自治会」の割合は、男性回答者が22.8%と2割強であるのに対し、女性回答者は7.3%と1割に満たず、女性回答者よりも男性回答者のほうが多く参加しています。一方、「子ども会活動」（男性0.9%、女性10.0%）、「PTA活動」（男性2.5%、女性14.2%）は、男性回答者より女性回答者のほうが現在参加していると回答した人の割合が高くなっています。



### 【年齢別】

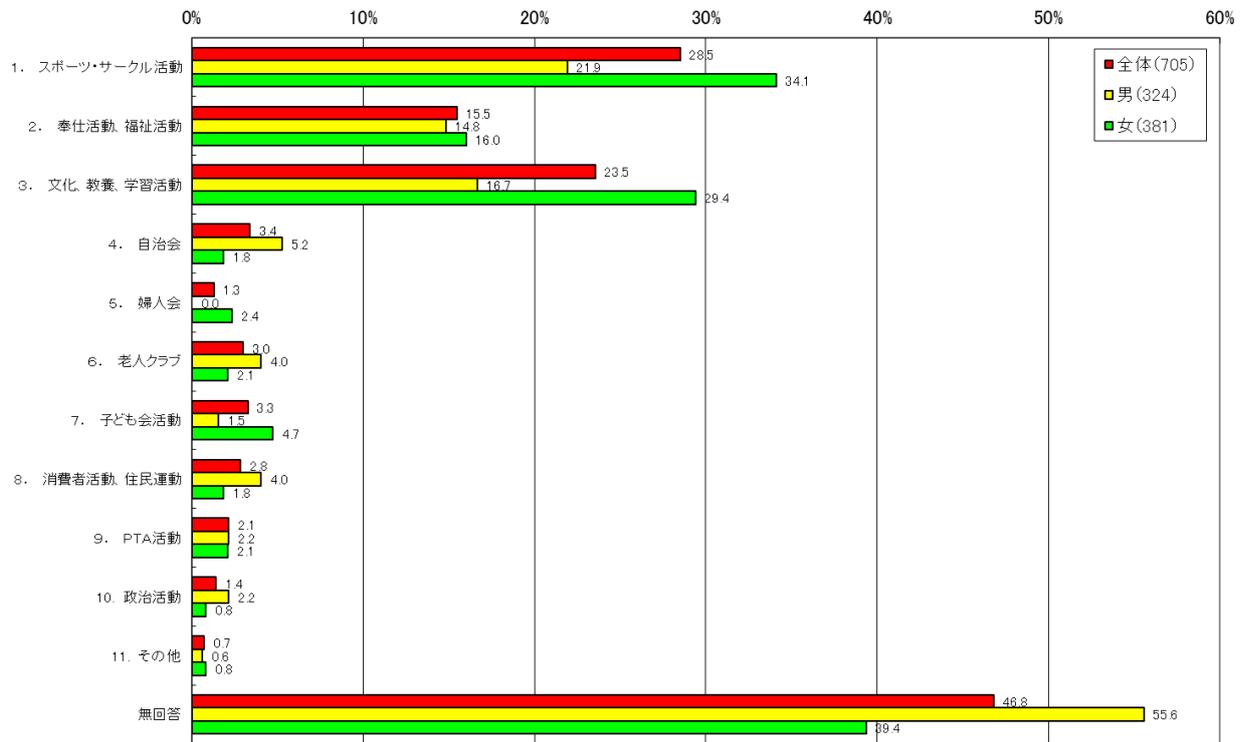
「無回答」の割合は、いずれの年齢層でも4割を超えており、地域活動に参加していない人が多くなっています。特に20歳代では「無回答」の割合が72.0%と最も高く、7割を超えています。

「スポーツ・サークル活動」の割合は、50歳代で20.7%と最も高く、次いで60歳代で17.0%、70歳以上で16.7%となっています。

「自治会」の割合は、50歳代で24.7%と最も高く、次いで60歳代で21.7%となっています。

「子ども会活動」の割合は、30歳代で19.0%と最も高く、次いで40歳代で11.9%となっています。「PTA活動」の割合は、40歳代で23.7%と最も高く、次いで30歳代で21.5%となっています。「子ども会活動」の割合と「PTA活動」の割合は、30歳代、40歳代で他の年齢層に比べて高く、参加している人が多くなっています。

### 問 13-2 今後参加したい地域活動



#### 【全体】

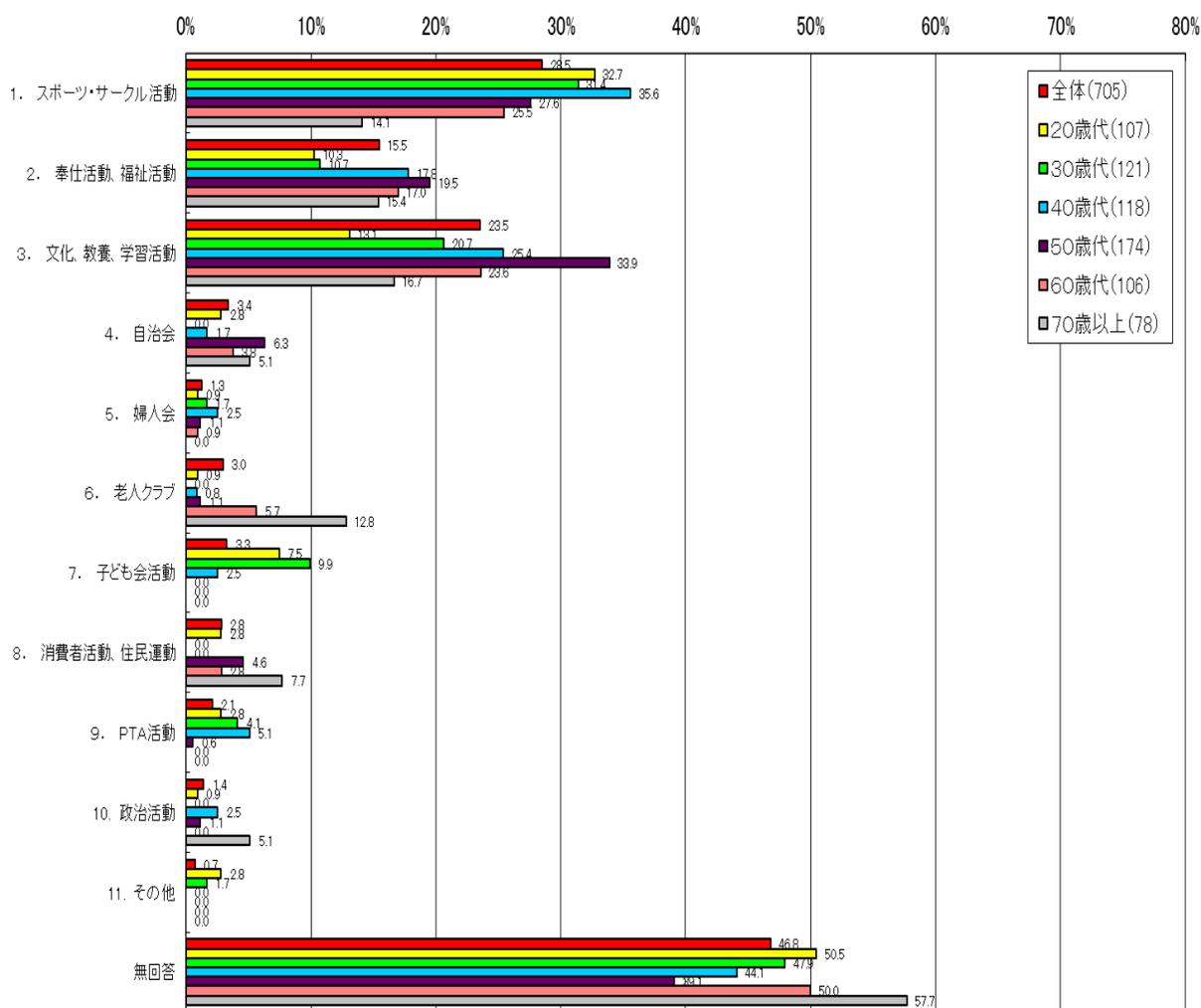
「無回答」の割合が46.8%で最も高くなっており、今後参加したい地域活動がない人が多いことがうかがえます。

参加したい地域活動の中では、「スポーツ・サークル活動」の割合が28.5%で最も高く、次いで「文化、教養、学習活動」の割合が23.5%となっています。

#### 【性別】

男女とも「無回答」の割合が最も高くなっていますが、男性回答者が55.6%と5割を超えているのに対し、女性回答者は39.4%と4割弱で、男性回答者よりも女性回答者のほうが地域活動への参加意欲が高い傾向にあります。

「スポーツ・サークル活動」（男性21.9%、女性34.1%）、「文化、教養、学習活動」（男性16.7%、女性29.4%）は、男性回答者よりも女性回答者のほうが参加したいと回答した人の割合が高くなっています。一方「自治会」は、男性回答者が5.2%であるのに対し、女性回答者が1.8%で、女性回答者よりも男性回答者のほうが参加したいと回答した人の割合が高くなっています。



### 【年齢別】

いずれの年齢層でも「無回答」の割合が最も高くなっていますが、50歳代は39.1%で他の年齢層よりも低くなっており、地域活動への参加意欲が高いことがうかがえます。

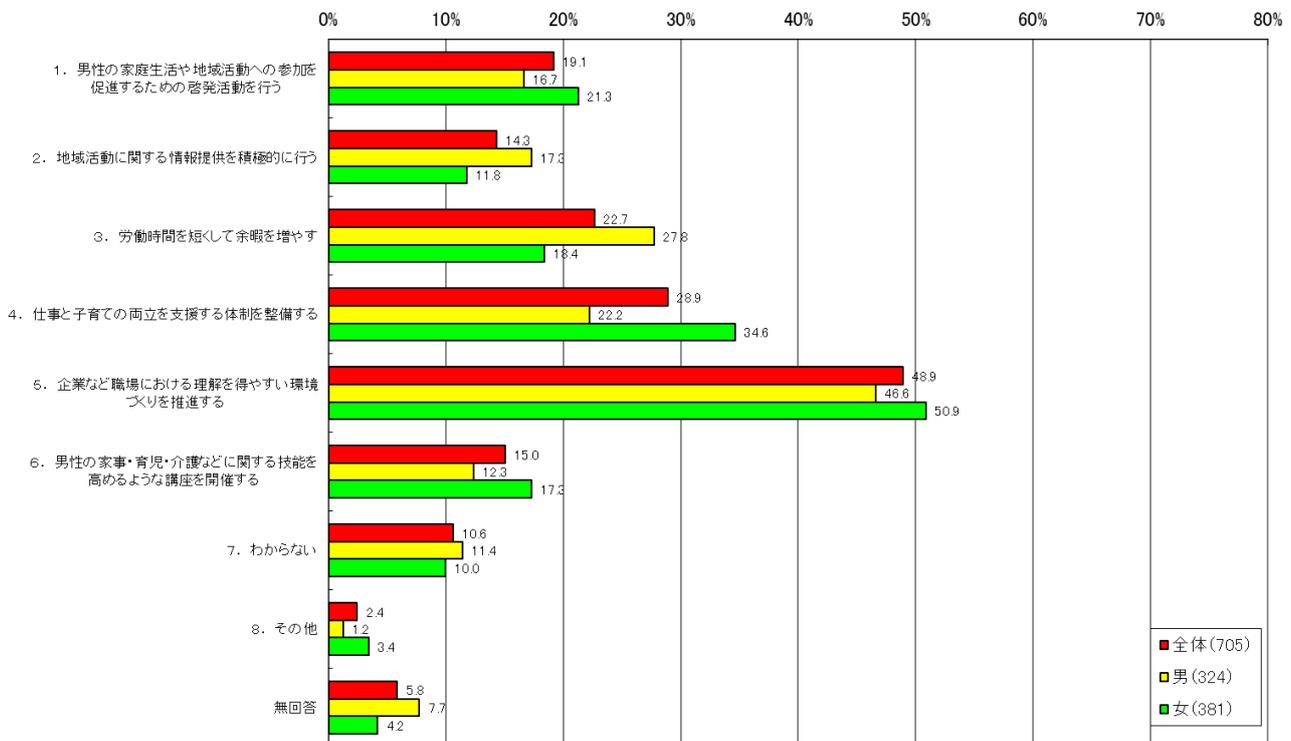
「スポーツ・サークル活動」の割合は20歳代(32.7%)、30歳代(31.4%)、40歳代(35.6%)で3割を超えており、若い年齢層で高くなっています。

「奉仕活動、福祉活動」の割合は40歳代(17.8%)、50歳代(19.5%)、60歳代(17.0%)で約2割となっており、高い年齢層で高くなっています。

「文化、教養、学習活動」の割合は、50歳代で33.9%と他の年齢層よりも高くなっています。

## 4-2 男性の家庭生活や地域活動への参加

問14 これまで男性は、比較的家庭生活（家事・育児・介護など）や地域活動への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

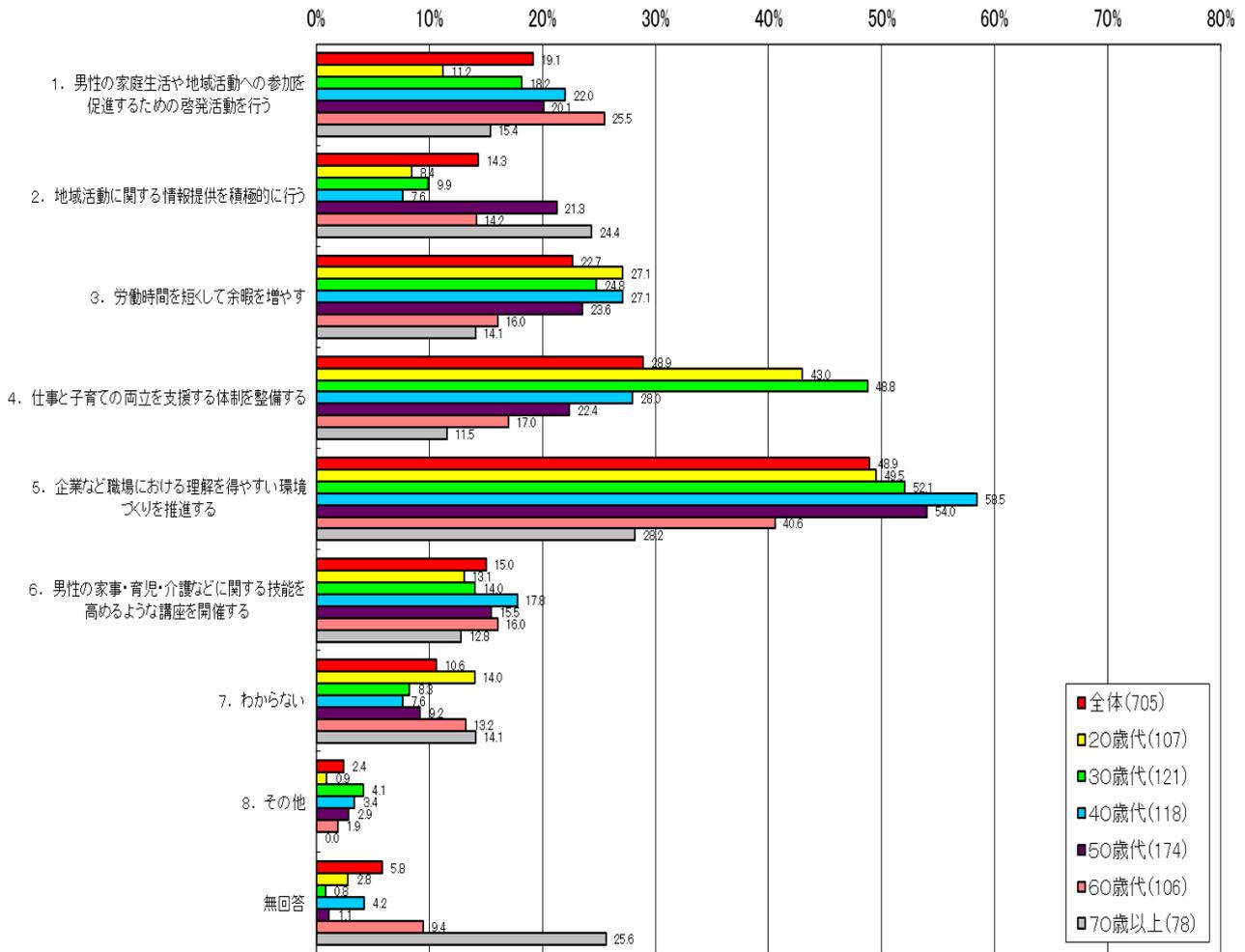


### 【全体】

「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」と回答した割合が48.9%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」と回答した割合が28.9%、「労働時間を短くして余暇を増やす」と回答した割合が22.7%となっています。

### 【性別】

「労働時間を短くして余暇を増やす」と回答した割合は、男性回答者が27.8%であるのに対して、女性回答者は18.4%で男性回答者のほうが女性回答者よりも9.4ポイント高くなっています。一方、「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」と回答した割合は、男性回答者が22.2%であるのに対して、女性回答者は34.6%で女性回答者のほうが男性回答者よりも12.4ポイント高くなっています。



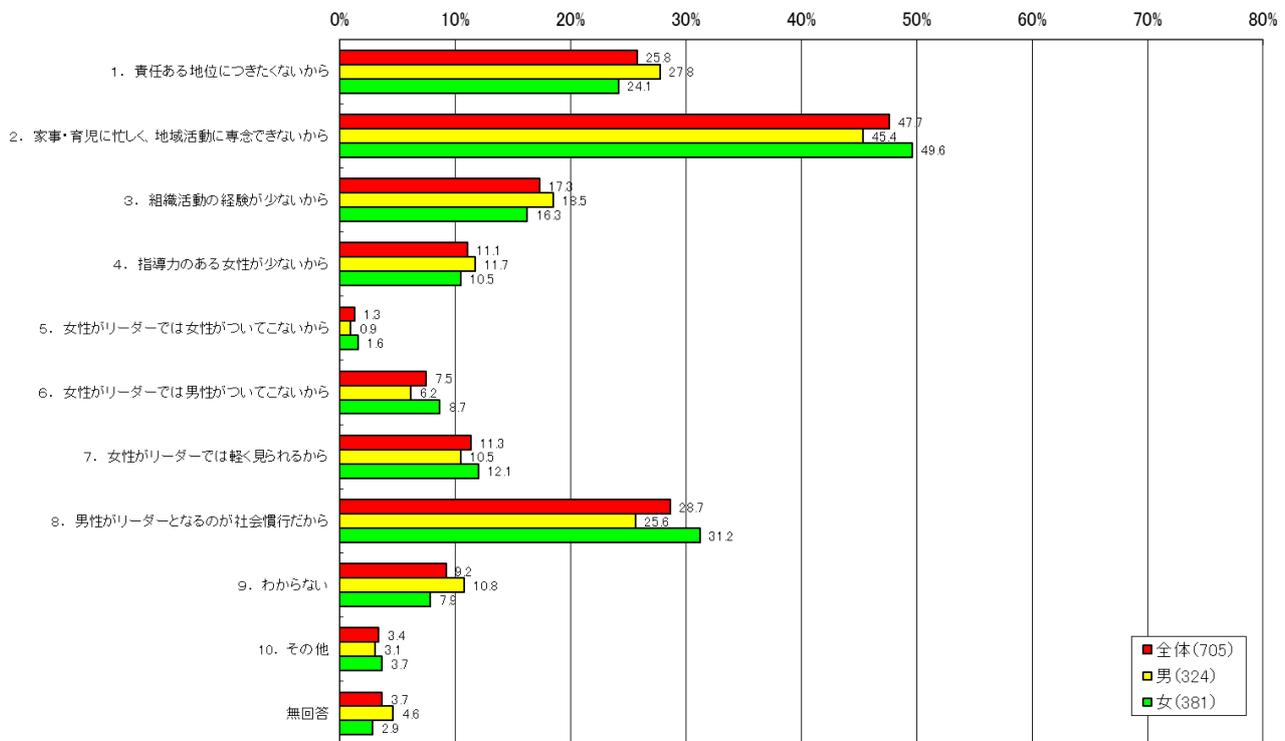
【年齢別】

「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」と回答した割合は、40歳代で58.5%と最も高く、次いで50歳代で54.0%となっています。

「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」と回答した割合は30歳代で48.8%と最も高く、次いで20歳代で43.0%と4割を超え、他の年齢層よりも高くなっています。

### 4-3 女性リーダーが少ない原因

問 15 自治会やPTAなどの活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その原因は何だと思いますか。(〇は2つまで)



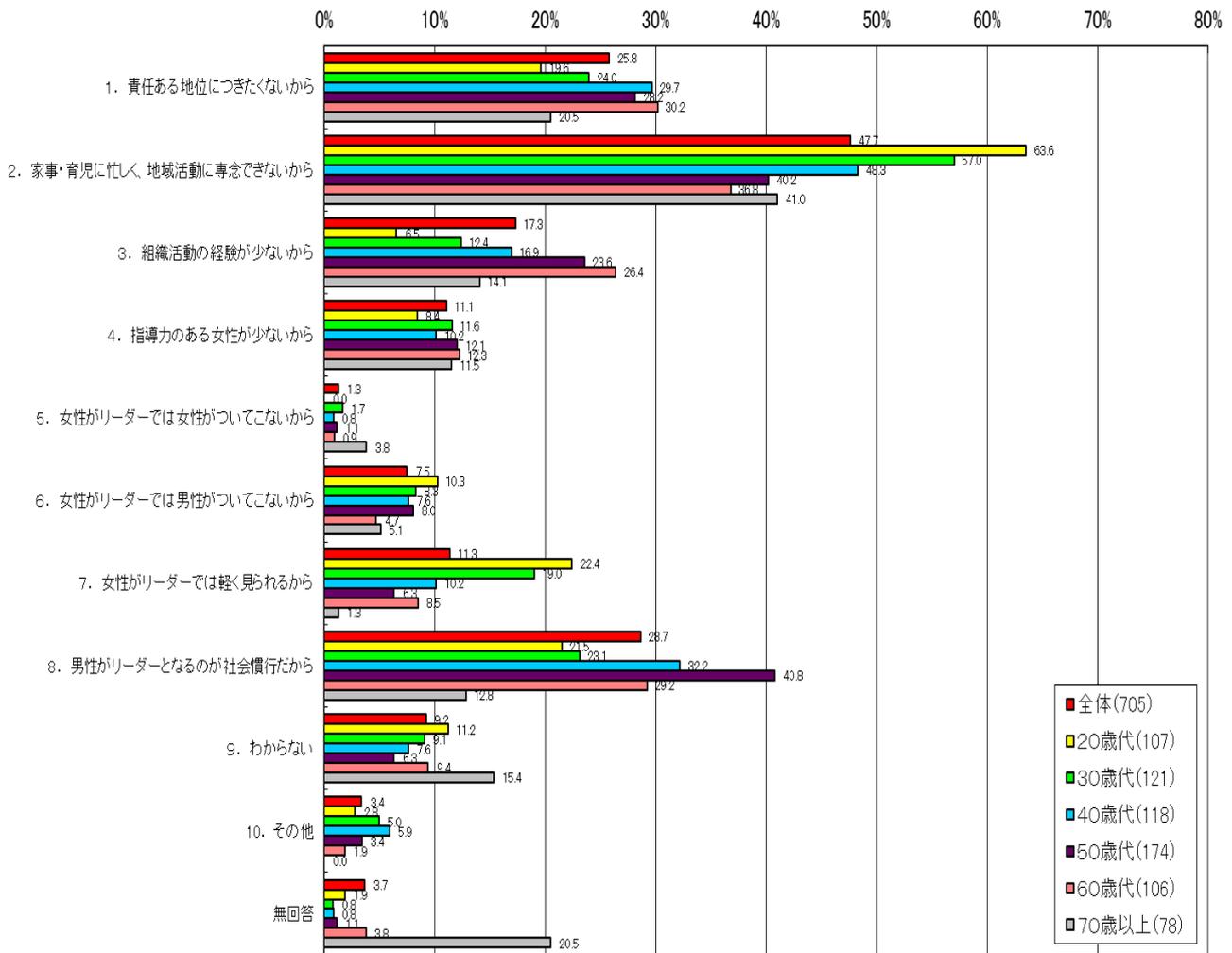
#### 【全体】

「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」と回答した割合が47.7%と約5割で最も高く、次いで「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」と回答した割合が28.7%となっています。

一方、「女性がリーダーでは女性がついてこないから」と回答した割合が1.3%と最も低くなっています。

#### 【性別】

「責任ある地位につきたくないから」(男性27.8%、女性24.1%)、「組織活動の経験が少ないから」(男性18.5%、女性16.3%)は、女性回答者よりも男性回答者のほうが回答した割合が高いのに対し、「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」(男性45.4%、女性49.6%)、「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」(男性25.6%、女性31.2%)は、男性回答者よりも女性回答者のほうが回答した割合が高くなっています。



【年齢別】

「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」と回答した割合は、20歳代で63.6%と最も高く、次いで30歳代で57.0%となっており、若い年齢層で高くなっています。

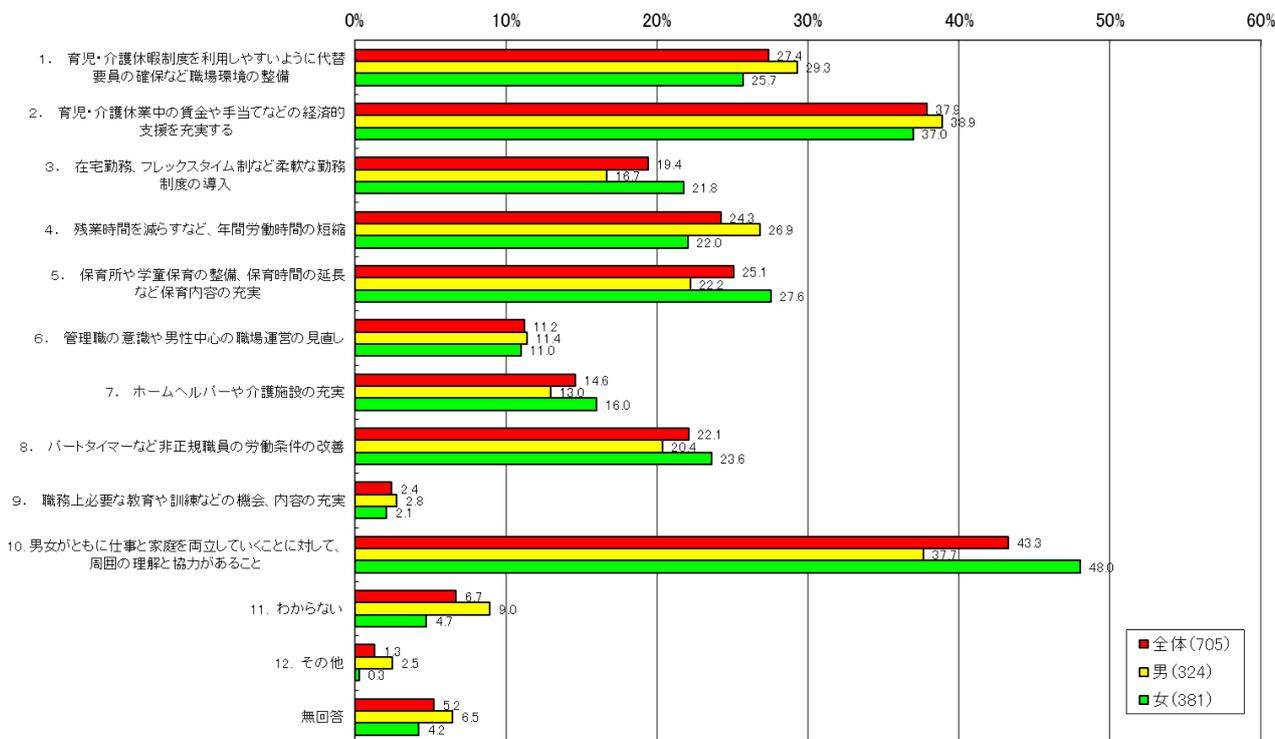
「組織活動の経験が少ないから」と回答した割合は、50歳代で23.6%、60歳代で26.4%と高い年齢層で高くなっています。

「女性がリーダーでは軽く見られるから」と回答した割合は、20歳代で22.4%と最も高く、次いで30歳代で9.0%となっており、若い年齢層で高くなっています。

「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」と回答した割合は、50歳代で最も高く40.8%と4割を超えており、他の年齢層よりも高くなっています。

#### 4-4 仕事と仕事以外の生活の調和

問16 あなたは、男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



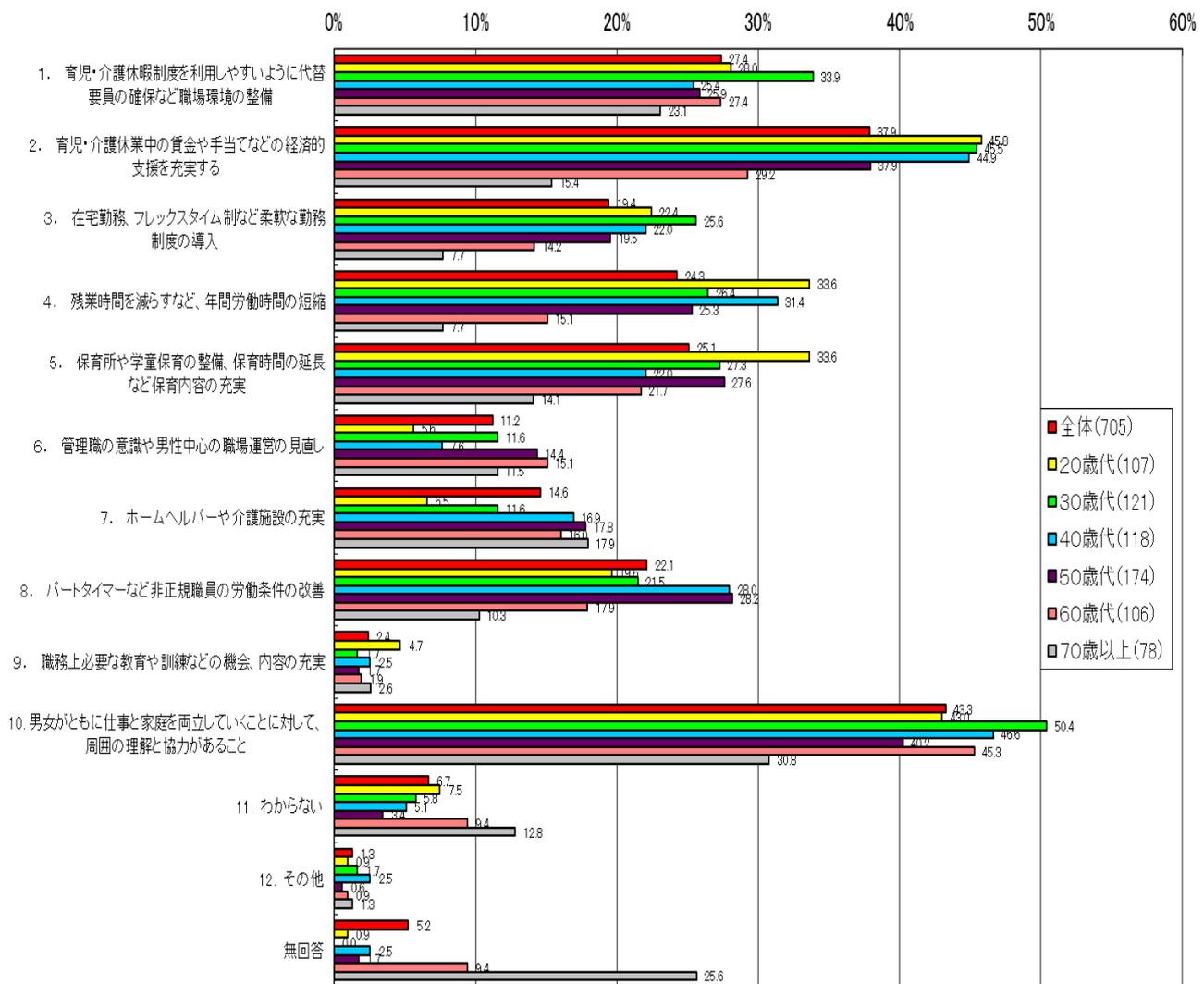
#### 【全体】

「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」と回答した割合が最も高く 43.3%、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合が 37.9%、「育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備」と回答した割合が 27.4%となっています。

#### 【性別】

男性回答者では、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合が 38.9%で最も高く、次いで「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」と回答した割合が 37.7%、「育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備」と回答した割合が 29.3%となっています。

女性回答者では、「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」と回答した割合が 48.0%で最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合が 37.0%、「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実」と回答した割合が 27.6%となっています。



### 【年齢別】

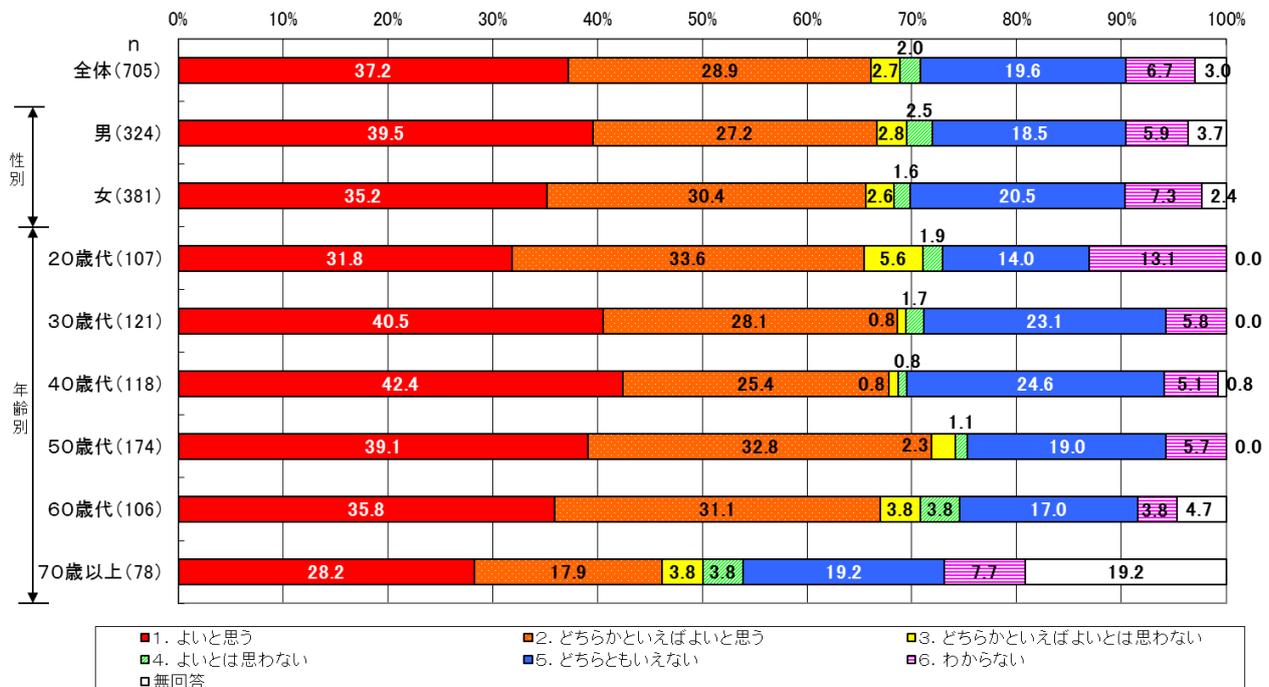
「育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備」と回答した割合は、30歳代で33.9%と他の年齢層よりも高くなっています。

「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合は、20歳代で45.8%と他の年齢層よりも高くなっており、20歳代(45.8%)、30歳代(45.5%)、40歳代(44.9%)で4割を超えています。

「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実」と回答した割合は、20歳代で33.6%と他の年齢層よりも高くなっています。

## 4-5 指導的地位に占める女性の割合

問 17 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思いますか。(〇は1つ)



### 【全体】

「よいと思う」(37.2%)、「どちらかといえばよいと思う」(28.9%)を合わせた割合は66.1%と6割以上の方が様々な職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと回答しています。

一方、「よいとは思わない」(2.0%)、「どちらかといえばよいとは思わない」(2.7%)を合わせた割合は4.7%と1割に満たない状況となっています。

なお、「どちらともいえない」と回答した割合は19.6%となっています。

### 【性別】

男女とも、「よいと思う」(男性39.5%、女性35.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「どちらかといえばよいと思う」(男性27.2%、女性30.4%)、「どちらともいえない」(男性18.5%、女性20.5%)の順に割合が高くなっています。

なお、「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合は、女性回答者(65.6%)より男性回答者(66.7%)のほうが1.1ポイント高くなっていますが、どちらも6割を超えています。

### 【年齢別】

「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合は、50歳代が71.9%と最も高く、次いで30歳代が68.6%となっています。

「よいとは思わない」「どちらかといえばよいとは思わない」を合わせた割合は、60歳代と70歳以上が同数で7.6%と最も高く、次いで20歳代が7.5%となっています。

### 【前回調査（平成20年）との比較】

	よい と思う	う えど ばち よら いか と 思い	思 えど わばち なよ ら い か と は い	な よ い と は 思 わ	え ど な い ら と も い	わ か ら な い	無 回 答
H20	38.7	24.4	4.4	5.5	16.9	4.1	6.1
H26	37.2	28.9	2.7	2.0	19.6	6.7	3.0

「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合は、平成20年（63.1%）よりも平成26年（66.1%）のほうが多くなっています。

一方、「よいとは思わない」「どちらかといえばよいとは思わない」を合わせた割合は、平成20年（9.9%）よりも平成26年（4.7%）のほうが低くなっています。

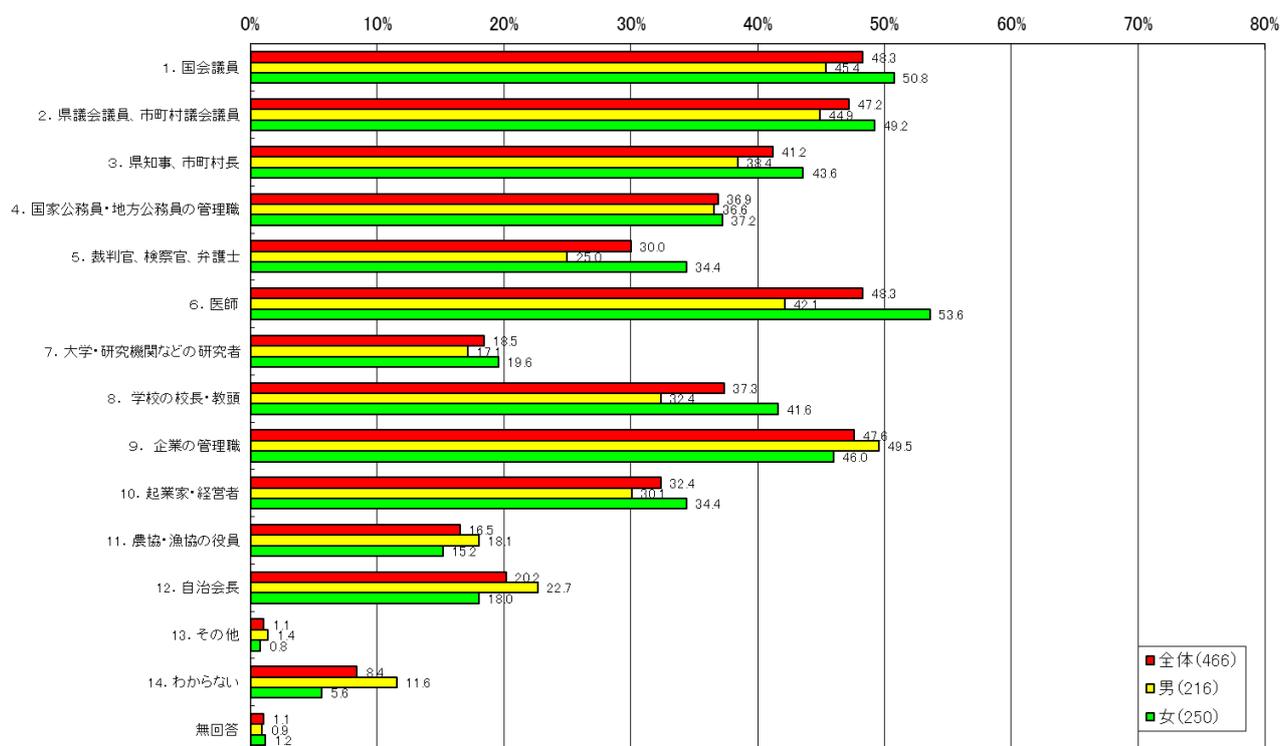
したがって、指導的地位に占める女性の割合が増えることがよいという考え方が強まったことが推察されます。

#### 4-6 女性の割合が増えるほうがよいと思う職業

問 17-1 問 17で「1」または「2」と回答した方のみお答えください。次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(あてはまるものすべてに〇)

##### 【全体】

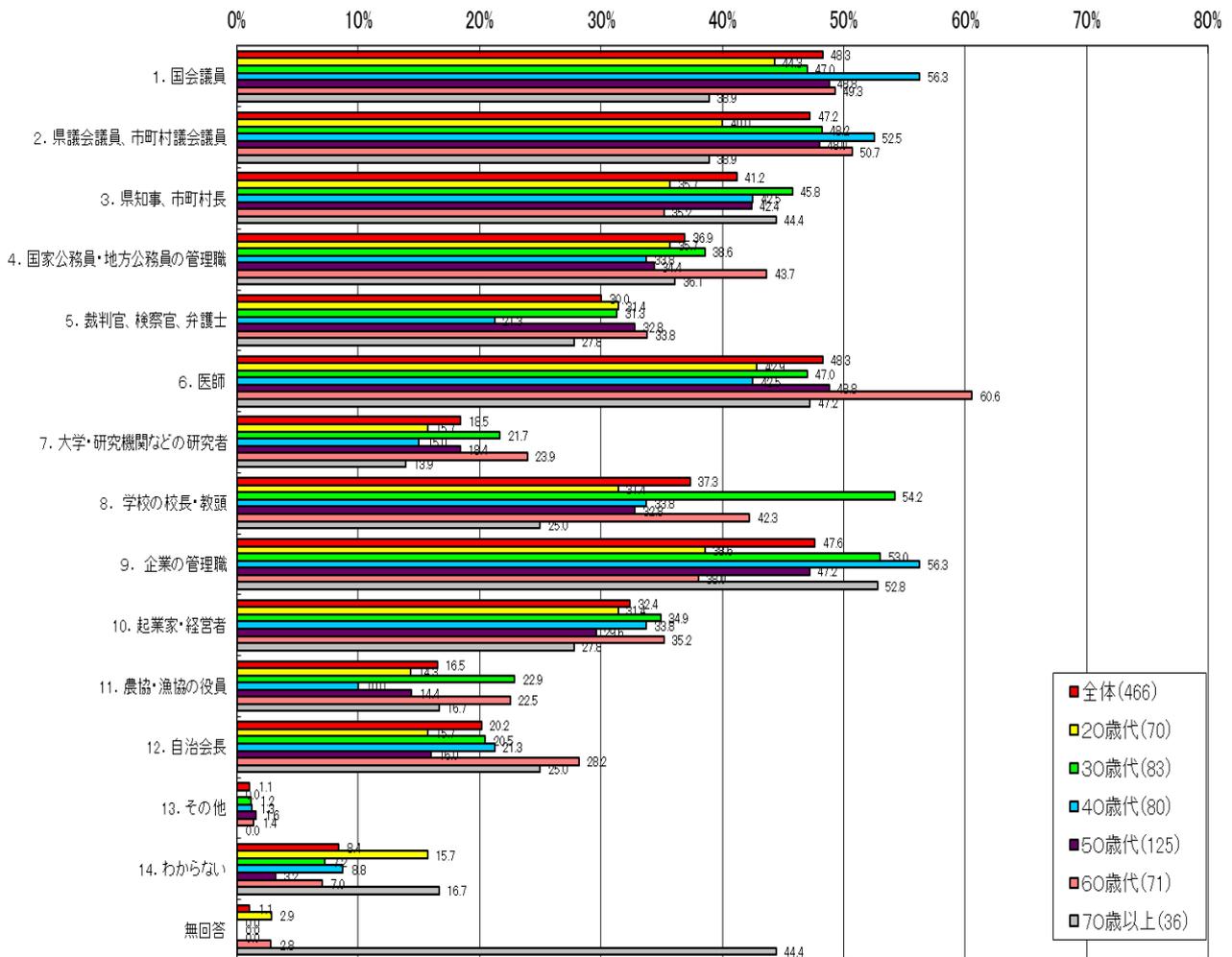
「医師」、「国会議員」の回答が同数で48.3%と最も高く、次いで「企業の管理職」の回答が47.6%、「県議会議員、市町村議会議員」の回答が47.2%、「県知事、市町村長」の回答が41.2%となっています。



##### 【性別】

男性回答者では「企業の管理職」と回答した人の割合が49.5%で最も高くなっているのに対し、女性回答者では「医師」と回答した人の割合が53.6%で最も高くなっています。

なお、「裁判官、検察官、弁護士」(男性25.0%、女性34.4%)、「医師」(男性42.1%、女性53.6%)、「学校の校長・教頭」(男性32.4%、女性41.6%)の回答は男性回答者と女性回答者のポイント差が大きくなっています。



【年齢別】

20歳代では、「国会議員」と回答した人の割合が44.3%で最も高くなっています。

30歳代では、「学校の校長・教頭」と回答した人の割合が54.2%で最も高く、他の年齢層より高くなっています。

40歳代では、「国会議員」「企業の管理職」と回答した人の割合が同数の56.3%で最も高くなっています。

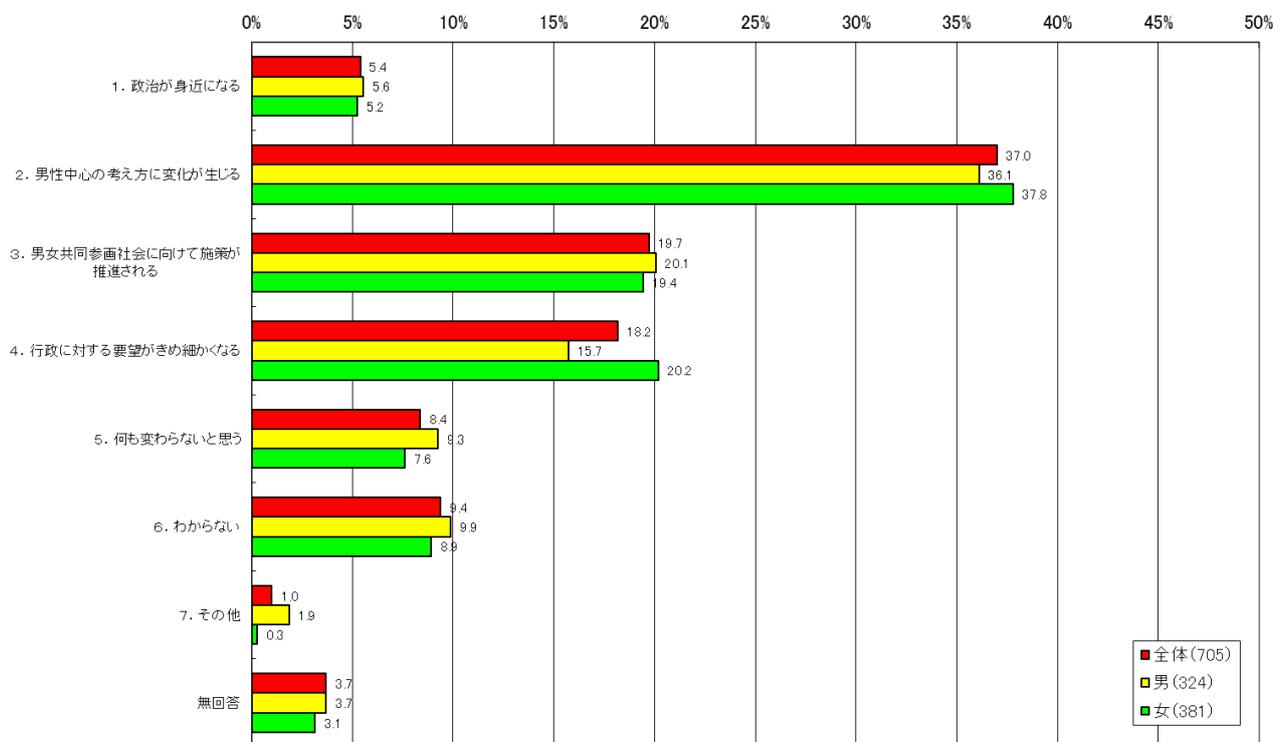
50歳代では、「国会議員」「医師」と回答した人の割合が同数の48.8%で最も高くなっています。

60歳代では、「医師」と回答した人の割合が60.6%で最も高く、他の年齢層より高くなっています。

70歳以上では、「企業の管理職」と回答した人の割合が52.8%で最も高くなっています。

## 4-7 女性の参画による社会の変化

問18 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化すると思いますか。  
(〇は1つ)



### 【全体】

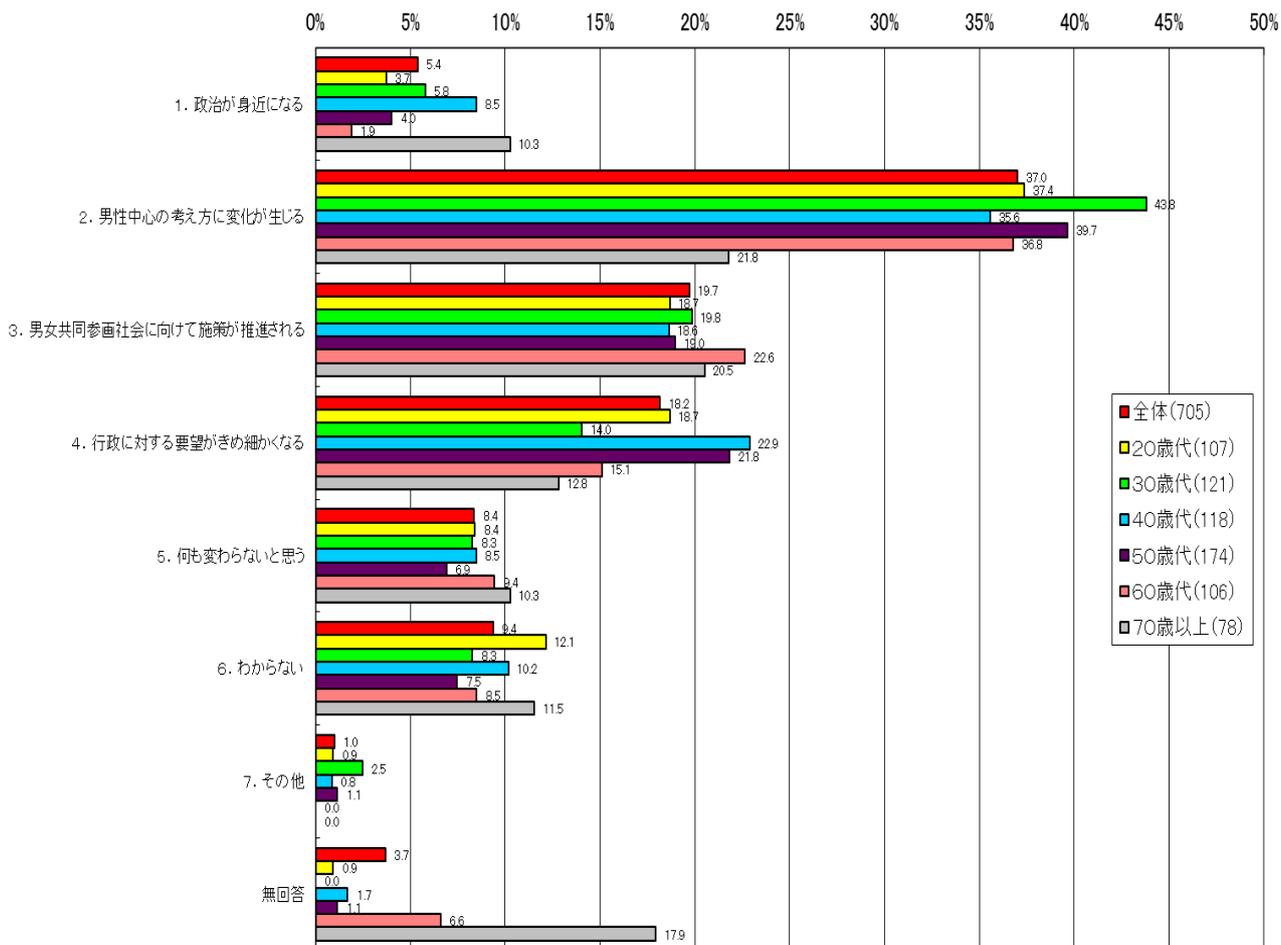
「男性中心の考え方に変化が生じる」と回答した割合が37.0%と最も高くなっており、次いで「男女共同参画社会に向けて施策が推進される」と回答した割合が19.7%、「行政に対する要望がきめ細かくなる」と回答した割合が18.2%となっています。

一方、「何も変わらないと思う」と回答した割合は8.4%となっており、社会に変化が生じると回答した人の割合のほうが高くなっています。

### 【性別】

男女とも「男性中心の考え方に変化が生じる」と回答した割合（男性36.1%、女性37.8%）が最も高く、3割を超えています。

「行政に対する要望がきめ細かくなる」と回答した割合は、男性回答者が15.7%であるのに対して、女性回答者は20.2%と、女性回答者のほうが男性回答者よりも4.5ポイント高くなっています。



【年齢別】

「男性中心の考え方に変化が生じる」と回答した人の割合は、30歳代が43.8%で最も高く、次いで50歳代で39.7%、最も低い40歳代でも35.6%と3割を超えており、いずれの年齢層でも最も高くなっています。

「行政に対する要望がきめ細くなる」と回答した人の割合は、40歳代が22.9%で最も高く、次いで50歳代が21.8%と2割を超えているのに対し、他の年齢層では2割に満たず、年齢層によってポイント差が見られます。